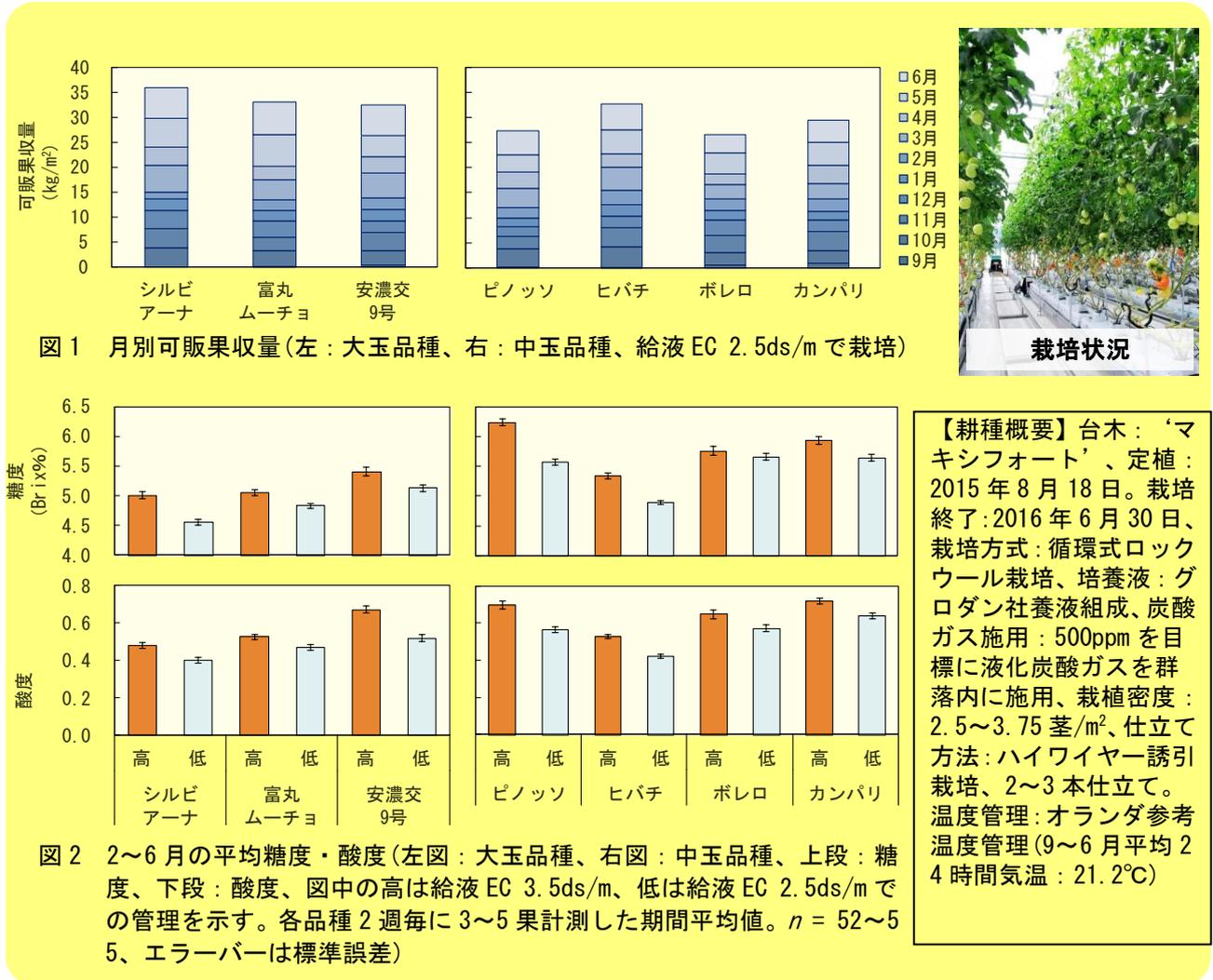


高軒高ハウスでのハイワイヤー誘引栽培 におけるトマト品種特性



農業技術センターでは高軒高ハウスでの環境制御によるトマト多収生産技術の開発に取り組んでいます。今回は、オランダで育成された大玉品種の‘シルビアーナ’ (Enza)、‘富丸ムーチョ’ (De Ruiter Seeds)、中玉品種の‘ピノッソ’・‘ヒバチ’ (Rijk Zwaan)、‘ボレロ’・‘カンパリ’ (Enza) と農研機構・野菜花き研究部門で育成された‘安濃交9号’の収量・果実品質について比較した結果を紹介します。

可販果収量は、給液ECを2.5ds/mで管理した場合、大玉品種では33~36kg/m²程度、中玉品種では27~33kg/m²程度が得られ、1果重が大きい品種では収量が多い傾向が示

されました(図1)。ただし、1果重が大きい品種では給液ECを3.5ds/mで管理した場合に収量が減少する傾向も示されました(データ省略)。

糖度および酸度は、収量が多い品種で低い傾向が認められました(図2)。また、給液EC 2.5ds/m(低区)に比べて3.5ds/m(高区)で高まりやすいものの、給液ECの違いが糖度・酸度に影響する程度は品種によって異なることが考えられました(図2)。

今後は温室内のCO₂濃度、気温および給液ECを組み合わせることで収量・果実品質に影響を及ぼす要因を解析していく予定です。

(施設野菜担当 橋田祐二 088-863-4918)